

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：33701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01838

研究課題名（和文）公正世界信念が公務員の政策認識に与える影響に関する実証的研究

研究課題名（英文）An Empirical Study on the Impact of Belief in a Just World on Civil Servants' Policy Perceptions

研究代表者

水野 和佳奈（Mizuno, Wakana）

岐阜協立大学・経済学部・教授

研究者番号：50458113

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では公務員の職務認識および政策認識のメカニズムを研究した。具体的には、公務員の公正世界信念（Belief in a Just World）と職務認識の関係を分析した。日本での公務員を対象とした調査データを分析し、以下の研究成果を得た。（1）公務員の職務上の問題認識のメカニズムはPublic Service Motivation（以下、PSM）では説明できない。（2）公務員の公正世界信念は告発に対する態度と負の相関を持つ。また、PSMは告発に対する態度と正の相関を持つ。（3）PSMは政策認識と相関する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「公務員が違法な情報を組織共有する」あるいは「公務員が政策過程において民意に沿った振る舞いをする」とは組織として望ましい。しかし、いずれの行動選択も公務員自身の裁量によるところが大きく、そのプロセスは外からの観察が難しい。したがって、法令や上司等による外的統制には一定の限界がある。そこで本研究では公務員の告発意欲を高める要因や公務員の政策認識に関わる要因の解明に取り組んだ。本研究の成果は、公務員の望ましい職務行動を促進する環境の整備や人事管理のあり方を検討する上で有意義な情報を提供できたと考えられる。

研究成果の概要（英文）：In this study, I investigated the mechanisms of public employees' job and policy perceptions. Specifically, I analysed the relationship between public employees' belief in a just world and their job perceptions. I analysed survey data on public employees in Japan and obtained the following research findings. (1) The mechanism of public employees' perceptions of job-related problems cannot be explained by Public Service Motivation (hereinafter PSM). (2) public employees' belief in a just world is negatively correlated with their attitude towards whistle-blowing. PSM is also positively correlated with attitude towards whistle-blowing. (3) PSM correlates with policy perceptions.

研究分野：経営組織論、行政学

キーワード：人的資源管理 経営組織論 モチベーション 公務員 告発行動 政策認識

1 . 研究開始当初の背景

公務員の労働意欲と職務認識、職務行動の関係について、海外の先行研究では、公的活動の意欲の測定指標として Public Service Motivation (以下、PSM) が開発され、「労働意欲の高低が公務員の職務認識や職務行動に与える影響」について多くの研究成果が蓄積されている。しかし、公務員の職務行動は政策形成や執行、評価などの政策過程を通じて実施されるため、職務意欲と同様に、政策認識が職務行動に大きな影響を与えていると考えられる。この点、PSM の先行研究では、PSM と政策認識の関係を分析する研究は限定的であった。PSM と政策認識の関係が解明できれば、政策の目的や特性に合った人事配置や研修のありかたを検討する上で有意義な情報を提供できる。

2 . 研究の目的

(1) 公務員の労働意欲が政策認識に与える影響の解明

先行研究で明らかになっている「公務員の労働意欲 (PSM) と政策認識の関係」が日本でも同様に適合するのか、統計分析によって検証する。労働意欲と組織システム、職務特性等の複数の変数を設定し、このうち、労働意欲がどの程度、政策認識と関係しているのかを解明する。

(2) 公務員の公正世界信念が政策認識に与える影響の解明

「公務員の労働意欲 (PSM) と政策認識の関係」を分析するモデルに「公正世界信念」を加え、公務員の公正世界信念と労働意欲 (PSM)、政策認識の各変数間の相互関係を明らかにする。

3 . 研究の方法

(1) 文献調査と分析モデルの設定

公務員の職務意欲および政策認識、公正世界信念に関する先行研究を収集・精査し、実証分析のためのモデルを設定した。具体的には、行政学における PSM 理論 (PSM の測定指標、PSM の要因、PSM と政策認識)、心理学における公正世界信念、経営組織論や組織心理学等における職務特性理論、職務における裁量の程度、コミュニケーションの程度など 等の先行研究を調査し、分析モデルを検討した。

(2) データを用いた実証分析

予備調査として実施済みの公私組織の職員を対象としたアンケート調査 (2019 年実施、データ数は約 2000) のデータを用いて、公務員の公正世界信念と職務認識、意識に関するモデルを検証した。具体的には、「職務上の告発意欲」と「タイプの異なる政策に対する認識や態度」が PSM および公正世界信念と関わるのかについて予備調査のデータを用いた実証分析を行った。

4 . 研究成果

本研究の主たる目的は、公務員の職務認識や政策認識のメカニズムを解明することである。公正世界信念と公務員の政策認識の関係の解明を最終目的として研究を行った。

(1) 公務員の職務意欲 (PSM) と職務上のミスの認識の関係分析

本研究の研究課題の 1 つである「公務員の職務意欲と職務認識」に関する分析として、「公務員の職務上のミスに対する認識」の要因分析を行った。具体的には、公務員の職務上のミスに対する認識 (公務員の職務上のミスを問題だと考えるかどうか) は労働者の公的活動の意欲 (PSM) と関わるのか、あるいは所属するセクターと関わるのか (公務員か民間職員か) について、予備調査のデータを用いた実証分析を行った。分析の結果、労働者個人の公的活動の意欲 (PSM) の効果を取り除いてもなお、公私セクターにおける組織や職務、労働者の性質の違いが行政の職務上のミスに対する認識と関連することが示された。公私組織間のどのような相違が行政の職務上のミスに対する認識と強く 関連しているのか、今後更に詳細な分析が必要であるが、本研究の分析結果では少なくとも、労働者個人の公的活動の意欲 (PSM) の高低では行政の問題認識のありかたを説明できないことが確かめられた。これらの研究成果は論文にまとめ、「行政の職務上のミスに対する労働者の認識に関する実証分析」として発表した。

(2) 公務員の公正世界信念と告発意欲の関係分析

公務員の職務認識に PSM と公正世界信念がどのように関係しているのかを解明するため、職務における告発意欲のメカニズムの解明に取り組んだ。具体的には、行政組織の職員を対象としたアンケート調査 (2019 年実施、データ数は約 2000) のデータを用いて、公務員の公正世界信念

と告発意欲に関するモデルを検証した。職務における不正行為の告発意欲を被説明変数とし、PSM と公正世界信念を説明変数とした順序ロジットモデルによって検証した。分析の結果、PSM と告発の意欲には統計的に有意な正の相関が確かめられた。つまり PSM が高い個人ほど告発の意欲が高いことが明らかになった。この結果は先行研究の結果とおおむね一致する（Prysmakova and Evans、2022 他）。本研究の分析により、PSM と告発に関する理論モデルが日本の公務員にも適用されることが確かめられ、理論モデルの頑健性を検証する点で意義があると考えられる。先行研究に対する優位性としては、職務の裁量の有無や職務におけるコミュニケーションの程度、提案促進制度の有無、組織規模といった職務特性や組織特性を統制変数として分析モデルに加えた点を挙げることができる。職務や環境要素の関連を排して PSM と告発の意欲の関連を検証できた点に意義があると考えられる。

本研究の社会的貢献としては、公務員の告発意欲を予測する指標として PSM を活用できる可能性を示した点である。また、公務員の職務環境が告発意欲に与える影響が小さくないことも実証的に明らかにした。具体的には、「上司や同僚と職務についてコミュニケーションを取る機会が多い」、「私が勤務する組織には、職務に関する提言を推進する制度（しくみ）がある」、「私の上司や同僚は、職務に関する提言を積極的に行っている」という質問で測定された変数はいずれも告発意欲と有意な正の相関が確かめられた。同僚や上司と職務におけるコミュニケーションの機会が多い、上司や同僚の提言行動を見聞きする機会が多い、提言制度が整備されているということは、公務員にとって職務に関連する情報を得る機会が多く、また、告発行動に対する心理的安全性が高い職務環境であると推測できる。公務員の告発行動を推進する環境の整備に資する情報を提供できたと考える。

これらの分析結果は論文にまとめ、「公務員の告発意欲 — Public Service Motivation と公正世界信念は告発意欲と相関するか？ —」というタイトルで発表した。

（３）公務員の政策認識と公正世界信念、PSM の関係分析

公務員の「政策」認識に公正世界信念がどのように関係しているのかを解明するため、政策認識のメカニズムの解明に取り組んだ。具体的には、行政組織の職員を対象としたアンケート調査（2019 年実施、データ数は約 2000）のデータを用いて、公務員の公正世界信念と政策認識に関するモデルを検証した。具体的には、タイプの異なる政策に対する認識や態度と公正世界信念、PSM の関係について実証分析を行った。分析の結果、PSM（の一部の指標で測定される値）は一部政策への肯定的態度・否定的態度と相関していることが確かめられた。一方、公正世界信念にはこうした傾向はみられなかった。加えて、PSM は公正世界信念とは独立に政策認識と相関していることが確かめられた。この結果は、2023 年日本行政学会研究会（2023 年 5 月 13 日）の分科会 B 「PSM 研究の最前線」において「公務員の PSM（Public Service Motivation）と政策認識の関連分析」というタイトルで発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 水野 和佳奈	4. 巻 56-2
2. 論文標題 公務員の告発意欲－Public Service Motivationと公正世界信念は告発意欲と相關するか?－	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 岐阜協立大学論集	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 水野和佳奈	4. 巻 54-3
2. 論文標題 行政の職務上のミスに対する労働者の認識に関する実証分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岐阜協立大学論集	6. 最初と最後の頁 35-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 水野 和佳奈
2. 発表標題 公務員の PSM（Public Service Motivation）と 政策認識の関連分析
3. 学会等名 日本行政学会（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------